

## 編集後記

創立百周年を迎えた理化学研究所は、次の100年に向けて大きく変わろうとしています。この度、多くの方々のご協力を賜り、理研が百周年を迎えた区切りとして、『理化学研究所百年史』を編纂致しました。先ずはご協力頂いた皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。

さて、「正史」としての「理化学研究所百年」を編集したわけですが、2005年にまとめられた『理研精神八十八年』は大変貴重な礎となりました。そこには1917年に財団法人理化学研究所として発足以来、大きな学術的成果を上げてきた「科学者の楽園」としての理研が活写されていると同時に、研究所運営の「自律性」の重要さが示されています。

本書は当初、その後の12年史に100年通史を合わせて一冊にまとめる予定でしたが、創立百周年記念事業の進行と連動して理研100年の歴史をたどるうちに、未来に残すべき内容が次から次へと現れ、かなりの大部となりましたが、三編構成で編集することになりました。

第Ⅰ編では、1917年から2017年までの100年の歴史をできるだけ客観的に記述することに努め、『理研精神八十八年』には無かったテーマについては、別途取り上げて詳しい記述がなされています。第Ⅱ編では2005年以降の経緯と研究成果を、必要かつ十分に取り上げています。この時期は、理研を取り巻く状況が日本の科学技術政策の変遷とともに大きく変化した時期に対応します。「研究者の自律が理研を支え続ける」など、執筆者の理研に対する思いが込められています。

今の理研は、様々な意味でイノベーションの牽引役としての役割を期待されています。特定国立研究開発法人として国の科学技術政策を具現化するべく、自律した「科学者の楽園」を発展・充実させ、開かれた理研として、より社会に近づいた存在へと変わっていくことが期待されています。様々なイノベーションを闊達に起こしていくには、理研の研究者のみならず彼らを支える人々の多様性と柔軟性、開放性が強く求められます。「イノベーションは歴史に学ぶ」とも言われますが、本百年史がその役割の一部でも担うことができるとすれば、望外の幸せです。

改めて、執筆して頂いた方々、編集に携わって頂いた方々にお礼を申し上げ、筆をおくことにします。有難うございました。

理化学研究所百年史編集委員会  
委員長 松本洋一郎

## 理化学研究所百年史編集委員会

編集委員長 松本洋一郎

### 編集委員

有 信 睦 弘

板倉周一郎 (2017年4月～)

羽入佐和子 (～2016年3月)

六 戸 博

安 藏 俊 成

加 藤 重 治 (～2017年3月)

小 安 重 夫

小 谷 元 子 (2017年4月～)

坂口昭一郎

加賀屋 悟

りかがくけんきゅうしよひやくねんし  
**理化学研究所百年史** 第三編 資料

RIKEN's First Century, Volume III : Data

2018年3月20日発行

非売品

企画・編集：理化学研究所百年史編集委員会

発 行：国立研究開発法人理化学研究所  
〒351-0198 埼玉県和光市広沢2-1

印刷・製本：河北印刷株式会社

〒601-8461 京都市南区唐橋門脇町28

©RIKEN 2018 Printed in Japan

ISBN978-4-9910056-2-6  
RIKEN 2017-057

